



特定非営利活動法人
ぷれいす東京

TOKYO

Newsletter

2012年5月号 No.73

CONTENTS

「つなぐ つづける ささえあう」.....	01
HIVと性の教育セミナー「性の教育はこう変わる ～ポスト『過激』のあらたな視点」開催.....	02
ネスト・プログラム.....	03
部門報告(2012年1～3月).....	05
2011年度活動報告会のご案内.....	08

「つなぐ つづける ささえあう」

～第26回日本エイズ学会学術集会へのお誘い～

樽井 正義

(第26回日本エイズ学会学術集会・総会 会長)

今年のエイズ学会の標語に、三つの言葉を選びました。

まずは真ん中の「つづける」。この病気との30年の取り組みは、差別と偏見をなくし、予防と治療の方策を開発し、必要とするすべての人に届けるという試みでした。この試みは、日本ではHAARTが導入され薬害和解が成立した1990年代後半から、2000年以降は世界規模で、着実な進展を見せてきました。しかし2009年以降、これを支えてきた経済情勢に陰りが見え始めたことを契機に、進展は足踏みを始めています。そこでいま私たちには、一方ではこれまでの努力を継承し、他方では革新的な新方策を提起することが求められています。これが「つづける」という言葉に込めた意味です。

この時間軸に対して「つなぐ」は空間軸、世界、わけてもアジアの近隣諸国との連携を意図しています。ARVの普及が進みつつあるアジアでは、あるいはまたMSMが類似の文化的文脈に置かれているアジアでは、日本の経験との交流が求められています。そのアジアのエイズに、いま世界が注目しています。来年6月には、クアラルンプールでIAS2013(パソジェニシス会議)、11月にはバンコクで第11回ICAAP、そして2014年にはメルボルンでAIDS2014(国際エイズ会議)が開催されます。私たちにはこの地域での会議を、アジアの仲間と連携して準備することが期待されています。

そして「ささえあう」。言うまでもなくエイズ対策は、医療者、科学者、コミュニティ、行政という異なるセクターの協力によって初めて可能です。この対策を支える学会は、基礎、臨床、社会という3つの領域が支え合っています。学術集会の会長も、3つの領域が交替で担当することになっており、社会は6年前に初めて池上千寿子さんが引き受けられ、3年前には市川誠一さんが引き継がれました。

学会には海外からゲストが招待されますが、今回その一人はピーター・ピオット(Peter Piot)さんです。医師と

なって博士課程にいた1970年代にエボラ・ウイルスの共同発見者となり、80年代にはアフリカで初のエイズ対策国際プロジェクトに参加しています。1996年に創設された国連エイズ合同計画(UNAIDS)の事務局長とアナン国連事務総長のもとで次長を長く兼務し、現在はロンドン衛生熱帯医学大学(LSHTM)の学長に就いておいでです。1994年の横浜国際エイズ会議には国際エイズ学会(IAS)会長として関わり、日本にも多くの友人がいます。エイズの30年を一貫して、人権に配慮した対策の先頭に立って推進してきたピーターこそ、「つづける」ことを語るにふさわしい人物だと思います。

第26回日本エイズ学会学術集会・総会
ウェブサイト:

<http://www.secretariat.ne.jp/aids26/>



会期: 2012年11月24日(土)～11月26日(月)

会場: 慶應義塾大学 日吉キャンパス

神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

演題登録期間: 2012年6月21日(木)まで

HIVと性の教育セミナー(東京性教育研修セミナー)

「性の教育はこう変わる

～ポスト『過激』のあらたな視点」開催

1月21日(土)13:00-16:30 於：日本性教育協会セミナー室

ぶれいす東京が主催し、日本性教育協会の後援で開催した本セミナーには、教員や地域の支援者ら23名の方に来場いただきました。当日はあいにくの大雨でしたが、参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。

セミナーでは、内閣府の第3次男女共同参画基本計画で示唆されたジェンダーの主流化や、具体的性教育の勧めなどのアプローチを、その足場を失いつつあった性教育の立ち直りの推力と位置づけた池上の講演を皮切りに、さまざまな分野の現場からの実践報告が続きました。HIV/AIDS やセクシュアル・ヘルス、セクシュアル・マイノリティ、性暴力、そして性教育といったテーマに横たわる関連性を描き出し、それぞれの専門家間で連携していくことを目指した本企画が、より包括的な教育や支援について考え、取り組んでいくひとつのきっかけとなっていれば幸いです。(大槻)

「HIVと性の教育セミナーに参加して」

染矢 明日香(会社員)

一般企業で働く一方で、日本の「くさいものに蓋を」的な性教育に疑問を感じ、一般の人が身近に、真剣に性や性教育について考える場をつくるという活動をしています。今回は最新の性教育事情を知りたいと思い、参加させていただきました。

池上千寿子先生の講演では、過激な性教育＝パッシングという構図は既に時代錯誤になっているということをお伺いし、性教育従事者は批判を恐れず、もっと自信と誇りをもって推進していくべきだと感じました。

そしてデートDVやLGBTとの関わり方、HIV支援といったテーマで、それぞれすばらしい取り組みをされ、ご活躍されている方々の講演を拝聴させていただきました。

特に印象に残ったのが、田中先生の高校生のデートDV教材自主制作のお話です。当事者としての意識を、演劇を通してシミュレーションする、ということと、そしてどうすれば同世代に問題意識を伝えら



都立竹台高校の養護教諭：田中喜代美氏

れるか、若い世代の人自身が考え、発信していくことが予防啓発の意識を高める一つの有効な手段になると感じました。デートDV以外のテーマだけではなく、セクシャルマイノリティや若年者の望まない妊娠の問題というようなテーマでも応用できるのではないかと思います。

そして全体を通して感じたのは、新たな試みや取り組みが一度きりで終わるのではなく、それが水滴と波紋の

■プログラム

第1部：講演	
「第3次男女共同参画基本計画にみる『性教育の勧め』のポイント～何をいかに教えたらいいのか、およびさらなる課題について」	池上千寿子 (特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表)
第2部：シンポジウム「教育と支援の現場から～新たな試みと課題」	
1.「『これからの二人』～高校生のデートDV教材自主制作から」	田中喜代美 (都立竹台高等学校 養護教諭)
2.「課題の克服にむけて～LGBT当事者の立場から」	ゲイの青年
3.「HIV陽性者支援と企業での研修の経験から」	大槻知子 (特定非営利活動法人 ぶれいす東京)
第3部：ディスカッション～フロアとの交流	

ように広がるような横展開を推進することはできないかということです。性教育従事者だけではなく、性の問題はだれしものに関わるものです。もっと多くの方に関心を持っていただけるような機会が増えたらいいな、そして自分自身でも増やしていきたいと思いました。

「性の教育はこう変わる ポスト『過激』のあらたなる視点」

田中 彩

[参加のきっかけ]

- ・若い世代のセクシャルマイノリティの支援をしていたので、現在の学校現場で実際に日々、悩みながらも学生生活を送っている当事者を広く様々な視点から見たかったため、今回参加させて頂きました。
- ・講演者も若い世代を支える高校現場の先生、また私と年齢が近い、現役の小学校の先生や、実際に企業に研修などを行なっているスタッフなどの話しは、実際これからどのような性教育が求められるかがわかりやすく講演されておりました。
- ・そうした演題は「若いセクシャルマイノリティのケア」を行なっている私にとって、非常にリアリティがあり、そこで生じたセクシャルマイノリティならではの悩みがシェアでき、とても参考になりました。

また、文科省の基本指導要領に明記されていないために、これまでの「性教育」において、置き去りにされてきた、「DV被害者」や「セクシャルリティの多様性」や「HIV陽性者」など、これまでないものとされてきたことや踏み込むことが許されなかった現実に触れている様子が伺え、より求められている「性教育の新しいかたち」が構築されてきており、未来に希望の持てるセミナーでした。

「I am Happy」

永岡 富紀子

1月21日(土)のセミナーに福島県の南相馬市から参加しました。今回の東日本大震災、その後の原発事故により、故郷、南相馬は全国的に有名になってしまいました。私は、地元の農業高校で養護教諭をしています。今、南相馬市を含む相双地区の高校生は、県内各地の高校や仮設校舎でサテライトという形で学校生活を送っています。幸い、私の学校は、昨年11月から本校舎に戻り授業を再開できました。震災前までは、自分なりに教材を作ったりして性教育の実践をしていたのですが、震災後はサテライトという環境で、どうやって今までどおりの保健室をつくりだせるかで、性教育のことは頭の片隅にあるものの、やる気は起きませんでした。

震災以来の東京、そして熱心な参加者の皆さん。午後の僅かな時間でしたが、たくさんのパワーを頂きました。

そのパワーが消えないうちにと早速、3月に2年生とデートDVの保健指導ができることになりました。放射能という見えない恐怖と闘う、福島の高校生を取り巻く状況はとても厳しいです。でも、性教育

を通して、「I am Happy」と心から言える生徒を育てていきたいと思います。どうか、皆さん、福島を忘れないでください。そして、機会があれば、是非、福島にきてください。お待ちしております。



第3次男女共同参画基本計画 etc. 講演する池上代表

ネスト・プログラム

様々なネスト・プログラムの中から、シリーズ“専門家と話そう”第10回「就労支援のプロと話そう」、第11回 Women's Salon「ストレスをためないコミュニケーションってなに?」、第3回 異性愛者のための交流ミーティングの参加感想文をお届けします。

シリーズ“専門家と話そう”

第10回「就労支援のプロと話そう」

行政(ハローワーク)や公的機関の立場で就労支援に携わる、松井勝さん(東京労働局 職業安定部 職業対策課 課長補佐)と渡邊典子さん(東京障害者職業センター主任障害者職業カウンセラー)をゲスト



東京都労働局の松井さん(左)と、東京障害者職業センターの渡邊さん

にお招してお話を伺いました。15名が参加して充実した学習会となりました。3名の参加者からの感想文をお届けします。

【参加感想文】

★ 参加する前は、障害者枠の求人というのは肢体・視聴覚等の障害を持った方向けであるというイメージが強く、免疫障害者が障害者枠で求職活動する事への不安を持っていた。しかし今回、東京労働局の方のお話を伺い、免疫障害が特別ということは無く、既に多くの就業実績があることを知り、心強く感じた。

また、併せてお話を伺った「東京障害者職業センター」では、事前相談から他の公的機関等への橋渡し、就業する事業所に対する受入支援まで包括的な支援が行われていることを初めて知り、利用してみようと思った。

制度やサービスに関する情報は数が多く、自分に合うものを見付けるのはなかなか大変だ。まずは今回の

ような専門家や様々な人の話を聞き、それらの情報を自分の中で消化し上手に利用して、良い結果に繋がっていければと思った。(かず)

★ 今回のテーマは、まさに今自分が置かれてる立場にもっとも必要だと思ったので、迷わずに参加を決めました。初参加でしたが、今HIV陽性者の置かれている立場での就職の状況が見え、とても参考になりました。

健常者でも雇用の難しい今、私たち HIV陽性者、障害を抱えた人の就職が如何に困難な事かも、自分で考えていたより現実的に捉える事ができ、とても参考になりました。

そして、その困難な状況の中で専門家の方の支援体制や、また障害者として就職活動をして職につかれた方の体験談は、とても参考になり有意義な2時間でした。

そして、最後にこの会で得た事は、めげずに、投げやりにならず、諦めないで就職活動に進む事だと、専門家の方の話や、同じ立場で就職活動をし仕事についての方の体験談から、改めて教えられ、これからの自分の進む方向性を改めて認識できてとても良かったです。(ショウ)

★ 今回、初めて参加させていただきました。就活で自分が今してることの確認と、現状を再確認することができたと感じております。

現在の状況や免疫機能障害者への就労支援活動に関して確認できましたし、今自分がしていることが、方向性として間違っていなかったと確信できました。引き続き自信を持って活動を続けます。

就職成功者の方々の話を聴く限りでは、特別なこと

をしているわけではなく、あきらめず粘り強く折れずに活動することが大切だと感じました。すでに100社以上落選はしていますが、この障害を理解し、自身の経験を買ってくれる企業を粘り強く探します。

今現在、同じように障害を持って仕事をしながら、悩んでいたりと、理解を得られず、仕事探しに苦労されてる仲間がたくさんいると思います。

一日も早く自分が仕事に就いて頑張ることが、自分自身だけでなく同じ障害を持つ皆さんのモチベーションにもつながるんだと感じています。

障害を持っていても健常者同様に働き、80歳まで生きることを目標に頑張りたいと考えます。

(40代 男性 鈴木一郎)

第11回 Women's Salon

「ストレスをためないコミュニケーションってなに？」

3月11日に第11回Women's Salon「ストレスをためないコミュニケーションってなに？」が開催されました。参加者は6名、ゲストの野坂祐子さんを囲んで、女性ならではの「午後のお茶会」のようなひとときでもありました。参加者3名の感想文をお届けします。

【参加感想文】

★ 病気がわかり約11ヶ月経ってから、参加しました。病院から何度か案内はしていただいていたのですが、私は一人で乗り越えられるし、どうにかなる。と考えていたので今まで参加しませんでした。しかし仕事で忙しい日々を送っている内は良いのですが、ふと時間が空くと不安がよぎり、涙がこぼれる日が何度もありました。心から笑えない日が続く、私は一度きりの人生、このままで一生を終わりたいと思うようになり、参加しました。

参加した後、私の張り詰めていたものがスルリと解けました。辛いことや悩めることは私一人だけじゃないんだということを実感しました。そして同じ病気を持っていても、前向きに歩んでる人達がいることを知り、大きな力をもらうことができました。私は、病気だから…という甘えがどこかであったと反省しなければいけないことに気付くこともできました。

これからは今の現実を受け入れ、日々を大切に過ごし、前に進んで行こうと思いました。(ペンネーム：A)

★ 3月11日のウーマンズサロンに参加しました。初めての参加だったので、どんな感じなんだろう、どんな人が来るのかなど不安もありましたが、すぐ打ち解けて話しが出来、不思議なくらいすんなり場に溶け込む事ができました。

感染がわかって10年近くたち、いつも一人ぼっちで頑張っていると思っていて、八方塞がり辛い気持ちを抱えてきましたが、皆さんと話しをしていたら、何だか今までの時間が勿体無かったなと思えてきました。でも私の場合はこれだけの時間が必要だったのだなとも思いましたけど。(なるべくこの病気の事は考えたくない、関わりたくないと思っていたもので…)

私は家族に感染のことを話していません。それに対してずっと罪悪感を感じてきました。今も解決できた

わけではないですが、話すか否か他の方の意見を聞く事で少し気持ちの整理ができました。妊娠、出産の事も家族から色々言われていますが、それも子供が嫌いと言いつき、のらりくらりとやってきました。その間に医療は進化して、知らない間に随分私のこの病の知識は遅れてしまっていました。これからは、一人で抱え込まず、疲れたな、新しい情報がほしいなと思ったらまたふれいす東京のお世話になりたいと思います。

(あき)

★ HIVが分かった直後は情報を集めようとふれいすに來たり、他の陽性者の方と交流があったのですが、自身の状態が落ち着くにしがって、そういった場から遠ざかってしまいました。

今回、久々に他の方々色々な話ができ、思いを共有することができてとても良かったです。

他の方のお話をきいていて、自分では自覚していなかった思い、感染がわかった直後に思った事(これからはもう恋愛や結婚は無理だとか、やりたい仕事はもう出来ないとか)、もう乗り越えたと思っていた気持ちが、まだ心の奥に残っていたことに気がきました。

そして、それが色々な事にブロックをかけていたんだなあと感じました。また、どこかで自分を卑下している事にも。それは、コミュニケーションのパターンにも表れていました。

この会の最後に思ったことは、HIVに感染しているからといって、自分を卑下する事は無いし、これからはもっと自分の気持ちや感じている事、自分自身に正直に自信を持って生きていこうという事です。

今回の会に参加して、本当に良かったです。このような会を開いてくださったふれいすの皆さん、どうもありがとうございました。(あんず)

異性愛者のための交流ミーティング

昨年の9月にこのプログラムがスタートして、11月に2回目、今年は1月20日に3回目、3月16日に4回目が開催されました。呼びかけ人と参加者からの感想文をお届けします。

【参加感想文】

★ 異性愛者のための交流ミーティングも1月20日で3回目となり、今回は11名(女性5名 男性6名)の参加となりました。

ミーティングの進め方として、特別に「今回はこれで」と言ったテーマは決めず、はじめに行う自己紹介の中からの関心事や参加して下さった皆さんから出てくる他の参加者へ聞きたい事、または話したい事などが自然と出てくるもので、あっという間に2時間が経過して行きました。

そんなミーティングの中で今回(今回も?)一番話題として上がったテーマは「出会い」について。参加者それぞれの経験、パートナーの有無、これからパートナーが必要か否か、など個々で異なるため、「そう言う考え方もありかも」と参考になる意見がたくさんありました。

こうして意見を聞くだけで自分が抱えている問題に

対しての解決策の数や幅が広がるものだとい今回も実感できました。

悩んでいる事を少し話すと様々な助言をくださる心優しい皆さんとミーティングが出来て有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。

(呼びかけ人：木村)

★ 異性愛者間ではまだあまり認識が低いこの病気で、パートナーを見つける事に難しさを感じておりました。

しかし、同じ病気の方とこの病気ならではの悩みを共有でき、また、カミングアウトして受け入れてくれるパートナーもいるというお話を聞き、とても勇気を頂きました。

この会をきっかけに、HIV だからと言って恋愛や結婚を諦める必要はないという前向きな考えが出来るようになりました。また、同じ病気のお友達もでき、出会いの場を提供して下さったぶれいすさんに感謝しております。本当にありがとうございました。(ナナコ)

部門報告 (2012年1～3月)



ホットライン

エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	1月	2月	3月
日 数(日)	4	4	4
総 時 間(時間)	16	16	16
相談員数(延べ人)	5	4.5	4.5
相談件数(件)	36	42	33
うち(男性)	32	37	27
(女性)	4	5	6
(不明)	0	0	0
陽性者相談	0	2	0
要確認相談	0	2	0
1日平均(件)	9	10.5	8.3

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	1月	2月	3月
日 数(日)	12	12	14
総 時 間(時間)	36	36	42
相談員数(延べ人)	29	27.5	35.5
相談件数(件)	217	192	200
うち(男性)	161	138	166
(女性)	55	54	34
(不明)	1	0	0
陽性者相談	1	1	1
要確認相談	1	1	2
1日平均(件)	18.1	16	14.3

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

1月	6日	東京都電話相談年始め
	10日	ミーティング打合せ(2名)
	13日	東京都電話相談連絡会(3名)
	15日	世話人会(7名) スタッフミーティング(18名)
2月	4日	個別ミーティング(4名)
	10日	東京都電話相談連絡会(3名)
	16日	第4回東京都ボランティア講習会 「外国人とHIV：なぜ支援が求められるか」 (6名)

19日	世話人会(6名) スタッフミーティング(15名)
25日	シフト担当打合せ(2名) 個別ミーティング(2名)
3月	3日 個別ミーティング(2名) 5日 ミーティング内容の打合せ(2名) 9日 東京都電話相談連絡会(3名) 18日 世話人会(5名) スタッフミーティング(15名) 23日 個別ミーティング(2名)

新人研修も済み、従来ならシフトの人員が一番安定している時期に入りました。ここ2年間の新人補強の人数が十分と言えます、とても苦しいシフト運営状況です。今年の研修には、多くの人が参加して頂けることを祈っています。

さあ新しい年度、仕切り直して頑張っていきましょう。

(報告：佐藤)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング(1-3月実績)

1/7：3名 1/19：3名 2/2：中止 2/23：6名
3/3：4名 3/15：7名
※ 個別ミーティング 12件

利用者数

8カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の16名の方に23名のバディスタッフを派遣

活動内容(2012年3月末現在)

派遣継続中	19件
在宅訪問	12件
病室訪問	4件
派遣休止	3件

1月～3月中の動き

・新規派遣 3件 ・派遣調整 15件

5-7月のミーティング日程

午前ミーティング：偶数月第1木曜 11:00／奇数月第1土曜 11:00
5/5(土) 6/7(木) 7/7(土)

※ 木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング：毎月 第3木曜 18:30
5/17(木) 6/21(木) 7/19(木)

バディの現場から

新規派遣が3件ありました。3件とも入院中の方で、うち2件は医療機関の紹介で、1件はネスト・プログラムを利用されたことのある方からの依頼でした。内容は、入院中の話相手、外出の支援等で、今年度のバディ研修を受けたバディも早速関わっています。また、派遣中の方も通院介助の支援の追加や、担当の変更などもあり、派遣調整が多い期間となっています。また、4月1日のぶれいすのお花見には、バディの付き添いで2名の方が参加されました。(報告：牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況(2012年1-3月)

グループ・ミーティング

- ・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第62期(参加者6名)
1/7 1/21(修了)
- ・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第63期(参加者6名)
2/10 2/24 3/9 3/23(修了)
- ・ミドル・ミーティング
1/14(13名) 3/10(17名)
- ・異性愛者のための交流ミーティング
1/20(11名) 3/16(9名)
- ・Women's Salon第11回
「ストレスをためないコミュニケーションってなに？」
ゲスト 野坂祐子さん(大阪教育大学)
3/11 参加者6名
- ・陰性パートナー・ミーティング
2/4(4名)
- ・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)
1/24(3名)
- ・新年カップル交流会
3/4(7組14名)

学習会

- ・シリーズ「専門家と話そう」第10回「就労支援のプロと話そう」
ゲスト 松井 勝さん(東京労働局)
渡邊典子さん(東京障害者職業センター)
3/22 参加者15名
- ・ストレスとうまくつきあうためのワーク第15期
1/16(10名) 2/13(7名) 3/12(5名)
- ・ベーシック講座「社会福祉制度」
1/18(1名)

トークサロン

- ・就職活動を報告しあう会
1/11(7名) 2/18(10名) 3/21(6名)

その他のミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
1/30(4名、8名) 3/28(2名、6名)

- ・web NEST運営委員会
1/23(2名、2名) 2/20(2名、2名) 3/19(2名、2名)

NEST NEWS LETTER

1/6：1月号発行 2/17：2月号発行 3/5：3月号発行

これから開催予定のネスト・プログラムは、NEST NEWS LETTERと、ウェブサイト「web NEST」、携帯サイト「mobile NEST」でご案内しています。また、web NESTの「レポート」のページでは、各プログラムのこれまでの開催記録や参加感想文などを掲載しています。どうぞご覧ください。(報告：はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

1月 7件 (1日平均1.75件)
2月 9件 (1日平均2.25件)
3月 7件 (1日平均1.40件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

1月：0件 2月：0件 3月：1件

新しい企画、引き続きのコラボレーション

2012年度、Gay Friends for AIDSでは、「エイズ予防のための戦略研究」から引き続き活動している「MSM首都圏グループ」に協力し、アウトリーチなどのプロジェクトに参加して行く予定です。そして、それとは別に、新しいイベントの企画に入っています。こちらは詳細がまとまり次第発表しますのでご期待ください。今年度もGフレをよろしく願いいたします。

(報告：sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績2012年1～3月

	1月	2月	3月
電話による相談	147	156	203
対面による相談	54	50	54
E-mailによる相談等	158	111	121
うち新規相談	36	22	37

※メール新規は含まず

1～3月の新規相談者の属性(N=95)

陽性者： 64人(男性：58 女性：6)
パートナー： 9人(男性：4 女性：5)
家族： 4人(男性：0 女性：4)
専門家： 7人(男性：3 女性：4)
その他： 11人(男性：6 女性：5)

※その他は、判定保留:6人、感染不安:2人、友人:3人

1～3月新規相談者の情報源(N=96)※重複あり

WEB(PC/携帯サイト含)	50件	他団体	3件
医療関係者	7件	パートナー	2件
他の陽性者	5件	事務所/ボランティアスタッフ	2件
電話相談	4件	東京都貧困対策事業担当者	1件
拠点病院/一般病院/クリニック	3件	以前から知っていた	3件
冊子/パンフレット/チラシ	3件	不明/その他	13件

※医療関係者は、医師4件、看護師2件、MSW1件

1～3月新規相談の内容

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】〔関東、近畿、海外〕

- ・ネスト・プログラムへの参加、問い合わせ等。計18件
- ・バディの利用について。
- ・ボランティアのオリエンで来所。計2件。
- ・他の陽性者と会える機会はないかと連絡を試みた。計2件。
- ・主治医から紹介されて面談に行きたいがどのような感じなのか連絡を試みた。
- ・英語でコミュニケーションを取れるバイセクシャルかヘテロのミーティングはあるか。
- ・海外在住でメールでやり取りのあった方の来所。

【検査や告知】〔関東、東海、近畿、中国/四国〕

- ・判定保留で確認検査の結果が出るまでの不安。計4件。
- ・感染が判ったばかりのため漠然とした不安。計3件。
- ・結婚しているため挙児について相談。
- ・告知直後の不安。仕事の継続、同居家族への感染不安、など。
- ・妊娠12週以降の検査で陽性と判った。
- ・確認検査結果待ち、同居の生活で子どもに感染している可能性はあるか。
- ・陽性の結果を受け取った。退職後のことを相談したい。
- ・即日検査で陽性と言われた。パートナーに相談ができない。

【人間関係】〔関東、甲信越/北陸、東海、近畿、中国/四国、九州/沖縄〕〔陽性者〕

- ・家族に感染がバレてしまった。
- ・彼女に感染させていないか心配。一昨日通知。
- ・コンドームなしSEXでの感染についての不安。
- ・妻への通知について迷っている。
- ・先月陽性と判明したが相手にはまだ話せない。
- ・陽性のパートナーの今後が心配。
- ・誰にも言えず、溜め込んでいたこれまでの経緯を聞いてほしい。

〔陰性パートナー〕

- ・陽性だと通知を受けた。基本的なHIVの情報、生活・経済的な情報が知りたい。計4件。
- ・彼女がエイズだと聞いた。自分の検査、相手の体調、生活に関することを聞きたい。
- ・妊娠を伝えたら陽性の彼から子どもにも感染の可能性があると言われた。
- ・結婚を考えているが実際に+/-で結婚している人はいるだろうか。

〔家族〕

- ・陽性と判った子どものこれからの生活が不安。プライバシーなど守られるのか。
- ・きょうだいと陽性のパートナーのことについて。
- ・子どもが陽性と判明。話せる場所が必要と思い連絡をした。

〔友人〕

- ・陽性者の付き添いで来所。
- ・一緒に生活したりドライブしたりしてもいいのだろうか。

【医療など】〔関東、甲信越/北陸〕

- ・拠点病院は保健所から言われた病院でなければならないのか。計2件。
- ・自分はたぶん(AIDSを)発症している。今後が心配。
- ・夫婦で陽性。コンドーム無しのSEXはいけないのか。

【生活や福祉】〔関東、近畿、甲信越/北陸、九州/沖縄〕

- ・身体障害者手帳・更生医療等、福祉に関する相談。計5件。
- ・任意継続保険を利用している。就職後に加入する健康保険について。計2件。

- ・引っ越し先のプライバシーが気になる。
- ・会社委託の医療機関で発行された健康診断書に障害名を記載されてしまった。
- ・傷病手当金を申請すると会社に病名が伝わるのか。
- ・外国人のため障害年金と手帳取得について聞きたい。

【就労】〔関東、近畿〕

- ・看護師で体調や今後の働き方についての相談。計2件。
- ・リストラ対象となっている等、就労に関しての相談。
- ・内定をもらった会社が定期的に海外出張がある。就労ビザの取得について聞きたい。
- ・職場に復帰できるか自信が持てずにいる。
- ・内定先への自主的検査提出についての相談。
- ・雇用形態の変更により国保から会社健保に変わる予定。陽性ということがバレないか。
- ・就労に関する資料をもらいたいため面談希望。

【専門家】〔北海道/東北、関東〕

- ・(訪問介護事業者)利用者で陽性の方がおり、事務所で勉強会の予定。講師派遣依頼。
- ・(都事業の担当者)福祉の現場で陽性者が働く事が可能か。
- ・(ケアマネ)陽性者の方で認知症が出ているかたの入居先について。
- ・(警察)留置所の陽性者が未通院らしい。収容にあたりどのようなことに気をつけたらいいか。
- ・(MSW)外国人で帰国予定。海外の医療情報が知りたい。

【その他】〔関東、東海〕

- ・家族との性的関係で悩んでいる。
- ・ネット上での個人情報の流出について弁護士等に相談したい。薬物依存の経過について。
- ・薬物使用からの鬱にてアパリから紹介されて連絡をした。
- ・薬物で知人が逮捕された事で相談。

(報告：牧原/生島/神原/福原)



研修・研究部門

研修事業

職場研修

1月26日 神奈川障害者職業センターにて研修。参加者21名。

2月9日 品川ハローワークにて研修。参加者110名。

受託研修協力

2月11～12日 シェア主催の青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修に協力。参加者16名。

HIVと性の教育セミナー(東京性教育研修セミナー)

1月21日 「性の教育はこう変わる～ポスト『過激』のあらたな視点」(後援：日本性教育協会)を開催。参加者23名。くわしくは、2ページの記事をご覧ください。

「MSM(男性と性的接触を持つ男性)へのHIV予防啓発技法」

1月30日 埼玉県エイズカウンセリング研修(特別研修)にMSM首都圏グループの一員として協力。参加者15名。

(報告：生島/牧原/大槻)

特定非営利活動法人ぷれいす東京

2011年度 活動報告会のご案内

ぷれいす東京では、活動報告会を今年も開催します。恒例のリレー式部門報告では、それぞれの部門から、日頃の活動を現場感覚いっぱいにお届けします。多様なスタッフが各部門から登場し、活動の広がりを感じさせてくれます。

トークコーナーでは、ぷれいす東京の池上代表が「エイズと私の30年」を語ります。

『30年前、セクソロジーを学ぼうとハワイ大学のミルトン・ダイヤモンド教授の研究室におしかけた私、待っていたのは多様性見本市のような仲間たちと「現代の奇病」でした。アメリカ本土がエイズパニックに襲われる中、ハワイでは「本土の失態を繰り返すな!」を合言葉にNGOがたちあがりみごとな協働でLiving Together環境ができていきました。ならば日本でもやってみよう…いやはいいろいろありました。とはいえ性とエイズに絡みついて30年の昨年、「性の健康世界学会」から金メダルをいただきました。日本人は4人目だとか。これを機に私と性とエイズ30年の総まとめを聴いてください。「ここだけの話」もできます。(池上)』

みなさま、お楽しみに! ぜひご参加ください。

■活動報告会の日時

2012年5月27日(日)
18:00~20:45(開場17:45~)

※どなたでも参加できます。ぷれいす東京の会員、賛助会員、寄付者、ネスト・プログラム利用者、招待者は無料。それ以外の方は、資料代として1,000円いただきます。

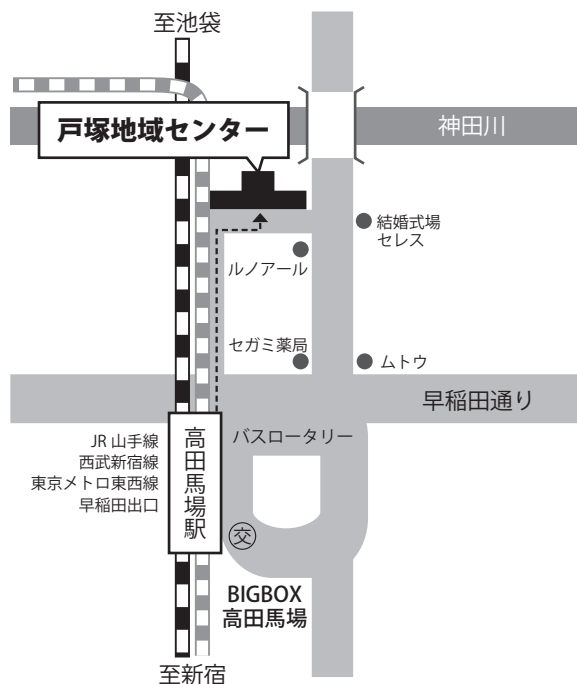
■プログラム

- ・ご挨拶
- ・部門報告
ホットライン / Peer Empowerment Program /
Gay Friends for AIDS / バディ / ネスト /
HIV陽性者への相談サービス / 研究・研修
- ・トークコーナー「エイズと私の30年」
スピーカー：池上千寿子(ぷれいす東京代表)

■活動報告会の会場

新宿区戸塚地域センター 多目的ホール
(昨年までと場所が異なりますのでお間違いのないよう
お越しください。)

東京都新宿区高田馬場2-18-1
(JR山手線・地下鉄東西線・西武新宿線「高田馬場駅」
下車徒歩3分)



■当日の問い合わせ先

ぷれいす東京 携帯電話：080-5387-8341(当日17:00~)

特定非営利活動法人ぷれいす東京
2011年度 総会について

2012年5月27日(日)16:00~17:00

※総会の参加は正会員に限りです。

※場所は別途お知らせします。

活動報告会とは場所が異なりますのでご注意ください。

編集後記

- ・新しいことを始めてみたり、お休みしてたことを再開してみたり、春を迎えようと不思議と動きたくくなります。洗濯物も乾きやすくなって嬉しい日々…。(こんどう)
- ・4月1日の花見には約90人があつまった。全く桜は咲いていなかったけども、ポカポカとした日差しの中、初めましての人も、久しぶりの人もいて、楽しい一日だった。(いくしま)
- ・東京は初夏を思わせる気候で、急に街中が軽装になりました。僕はといえば、懸案のプロジェクトを終え、原稿のメ切をギリギリでクリア、Newsletter73号も無事発行。そして、冬物の衣類をまとめてクリーニング。なんだか心身ともに軽くなったかも。(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
TEL：03-3361-8964(平日12~19時)
FAX：03-3361-8835
E-mail：office@ptokyo.com

ぷれいす東京：http://www.ptokyo.com/
Gay Friends for AIDS：http://gf.ptokyo.com/
web NEST：http://web-nest.ptokyo.com/
Twitter @placetokyo (http://twitter.com/placetokyo)